

# ウクライナ情勢と台湾統一 ～米中口関係の展望

2023/7/15 拓殖大学海外事情研究所

シンポジウム傍聴記録

# パネリスト紹介など

(パネリスト)

- 森本 敏 拓殖大学元総長・元防衛大臣(1941生まれ)
- 兵頭慎治 防衛省防衛研究所研究幹事 (1965)
- 秋田浩之 日経新聞コメンテーター(1965)
- 飯塚恵子 読売新聞編集委員(1963?)

(コーディネーター)

- 佐藤丙午 同大学 海外事情研究所所長(1966)

# ウクライナ戦争の現況と思想（兵頭）

1. **宇の反転攻勢は苦戦中**。反転攻勢でも奪われた領土はまだ0.1%奪還した程度。ロシア軍の抵抗は依然強い。また欧米の支援は遅れている。プリコジンの反乱の影響は軽微
2. **防空には空軍(F16)が不可欠**だが、パイロット訓練と整備体制が不可欠で時間がかかる。大きな進展は秋まで難しい。地上戦は一進一退の様相。
3. ロシア国民は元来帝国主義思想あり。強い指導者願望。プリコジンの反乱でプーチンの権威にキズ。しかし代わりがない。**停戦が出来ても「終戦」にはならない**。ルカシェンコは増長している？
4. 宇のNATO加盟には米独が強く反対した。ロシアはウクライナのNATO加盟阻止のため戦争継続を選ぶかもしれない。

# 宇露戦争について(森本)

1. ロシア進攻して500日経過。この5月以降の反転攻勢が可能なのはウクライナ人民と政権の意思能力もあるが、欧米のいろいろな支援のお陰(米は最大の支援国。支援の65% \$425億ドル)
2. 通信妨害を防いで、戦況が映像で相当見える状態が続いている。フェイクや虚偽報道の影響が低い。
3. バイデン政権は公約通り対ロ戦争回避方針。(武器提供は少しずつ。ロシア領土内不使用など細かい条件付き)米国の支援額の制約強まる(大統領権限枠は残り4億ドル。これから議会承認が必要だが共和党は支援に慎重方針)
4. 停戦の仲介は「インド」しかない。5月サミットにモディ首相とゼネンスキーが会見した意義は大。インド太平洋版NATOが必要だ

# 宇露戦争と台湾統一について(秋田)

1. 欧州諸国は戦後は終わり戦前(1939年前)に戻ったという認識が広がっている(この半年国際的なシンポジウムに参加した感想)第3次世界大戦への恐怖を持ち始めている。ドイツのポーランド侵攻を思い出している。
2. 台湾侵攻について、中国(政権)は短期的には慎重になるだろう。ロシアは3日で制圧できると誤解した。しかしこの戦争で欧米自由主義国の弱点も学習した筈。核の脅威に弱い点。しかし電子戦争(情報閉鎖)には強い。中国は核爆弾を300発から2000発製造するだろう。そして電子攻撃能力を強化するだろう。そして120%勝利する計画を立てるだろう。
3. ワシントンでは①2027年までの台湾進攻予想派(軍人)と②進攻はもっと先と予想する派(シンクタンク、CIA)などが拮抗している。米国は中国の台湾進攻に備えていることを対外公表して中国を牽制している。

# NATO首脳会議7/11と同盟（飯塚）

1. この会議冒頭で最もウクライナへの支援している英国国防大臣が「我々はアマゾンではない」と表明した。
2. ウクライナのNATO加盟に米独は×で長期的支援の協定化にも米独仏×だった。ゼレンスキーは会議結果に不満だったが、日本がG7として追加支援をまとめたので50%の満足となった。
3. NATO加盟はウクライナの悲願（最終到達目標） G7は先進国の有志の集まりで協定や条約がないので弱い。かつてロシアもG7メンバーだった（当時G8）。
4. 米国は1980年に米華相互防衛条約を破棄したが台湾関係法があり様々な支援活動している。日本は台湾と協定も法律もない。（文化経済交流が深化しているが限界に近付いている）

# 聴衆の質問から

1. 停戦の見込み(森本): 宇軍が東部4州の奪還できた段階まで無理だろう。しかしクリミア奪還は無理だろう。ロシアの経済的中國依存が強まり両国関係は一層深まっている。
2. 台湾総統選の見込み(秋田); 誰が総統に当選しても「現状維持」支持が国策になるだろう。国民党がたとえ奪取しても8年前の馬英九政権のような極端な親中政策はしないだろう。
3. 2027までの台湾進攻見込み(秋田・森本); 短期的にはないと予想するが、中国経済悪化などで国民の不満高まればありうる。習政権は2027までに台湾統一しないと4期目が難しいと考えている。(中国経済の悪化が不動産と金融で著しいことに留意すべし)

# 感想

1. リアル聴衆約200名（ほかにZoom参加あり）。
2. 2時間の熱い議論で最新戦況情報と歴史的・地政学的な見解が興味深く聞けた。
3. **核抑止と報道（通信・宇宙・防空）体制の重要性を再認識**。情報戦は依然続く。ロシア国内は情報遮断中。ロシアファンは依然多い。
4. 森本氏は元防衛大臣なので政府内での情報に詳しい。日中関係にも配慮した発言に深みあり。民間人と学者と研究者からはより自由な発言が聞けた。



# 補足資料

## ウクライナ戦争の衝撃と 日米中関係

- 2022, 4, 22 拓殖大学海外事情研究所
  - 緊急特別企画シンポジウム
    - 傍聴記録作成: 西村康裕

# パネリスト紹介など

(パネリスト)

- 森本敏 拓殖大学顧問・元防衛大臣(1941生まれ)
- 名越健郎 同大学特任教授 (1953)
- 佐藤丙午 同大学 海外事情研究所副所長(1966)
- 谷口智彦 同大学客員教授。安倍総理スピーチライター(1967)

(コーディネーター)

- 川上高司 同大学教授、前海外事情研究所所長(1955)

# ウクライナ戦争の現況(森本)

1. **第1ステージ(2/24開戦～3/29)** →3方向からの進攻
  - ロシアの明白な失敗(短期勝利未達、大幅な損害(戦車と歩兵など))
  - 2008年ジョージア進攻(5日間勝利)と2014年クリミア進攻(3日勝利)からの判断ミス。なお開戦判断は2月であったようで軍部との意思疎通・後方支援不足。
  - ウクライナ抵抗が想定以上(米国の支援、SNS戦争、宣伝、通信)
2. **第2ステージ(4/18～5/9 進行中)** →東部への集中攻撃  
現地指揮官一人に集中させた。(プーチンの政治的保身もあり)
3. **今後の見込み 長期化不可避か?**  
ロシア側に敗北というシナリオはない。またウクライナの敗北も考えにくい。従って休戦合意は長引く?

# ウクライナ戦争はなぜ起きたのか？（名越）

1. この戦争はプーチンの戦争（ロシア軍部は合意したものでない）
2. 緒戦の失敗は油断できない。独ソ戦争（1941）でも緒戦敗北しても最後は勝った歴史（犠牲に慣れている国民性）
3. プーチンは2000年就任18世紀ロシアからトルコに奪われた。側近から「大ロシアの栄光」と「ウクライナはロシアの一部」と吹き込まれた？ **ウクライナはロシア固有の領土という歪んだ歴史観ある**
4. バイデン政権（USA）の優柔な態度（2011/11バイデン対話で軍隊はしない。経済制裁だけ）。米国政権の反応を甘く判断
5. プーチン政権の基盤は強い（完全な情報統制。言論封殺）のクーデター可能性低い。経済制裁の抜け穴もある。

# 欧米の反応など(佐藤)

## 1. 金融・経済制裁の効果

- Swift排除は想定外(戦争遂行を変更する程の効果あるか?)
- 欧州は天然ガスと石油をロシアに依存している

## 2. 欧州諸国への影響

- スウェーデン・フィンランドがNATO加盟申請へ。バルト3国も危機感高い。ウクライナ支援協力の広がり→中立国のスイスさえも支援。(安保意識に衝撃)
- ロシア勝利で放置すると欧州諸国は「ヤバイ」という意識になった

## 3. ロシア核使用問題

- 核爆弾の使用する事態とは、ロシア存立危機事態と???
- ウクライナが勝ちすぎると核使用の可能性がある(レベル感?)
- 国連安保理の崩壊。G20の機能も崩壊。→G7と地域集団安保がカギ

# 日中・台湾関係と日本の将来（谷口）

1. 日本はG7の中で核保有の敵に囲まれている（中国・ロシア・北朝鮮）。イスラエルも同じく敵に囲まれているので核保有国。
2. 安倍政権の安保政策の核心は、周りの敵を減らし海に仲間を求めたこと（日中関係改善と米豪印英との関係強化）。しかし安倍政権でも今回のロシアへの対応は岸田政権とは変わらない。
3. 台湾は国家でない（国連加盟）。中国の台湾進攻では国際法違反にはならない。よって国際世論はウクライナのようにならない可能性ある。しかしロシアはこの戦争で世界を敵に回し、西側は完全に離反した。国連常任理事国の暴挙で国連やG20の機能も崩壊した。
4. 日本は世界の中で人気がある（嫌われていない）。自由民主主義陣営の大国として振る舞うチャンスが到来した。

# 情報戦争について(司会者主導で)

1. 森本:戦争当事国は宣伝合戦となる。情報の正否を判断する力が必要。  
衛星からのGSP情報や民生用ドローンの活用、国民のSNS情報の拡散など今回の戦争で機能している。サイバー攻撃への防衛では日本はまだ弱い。自衛隊には宇宙部隊500人、サイバー部隊500人いる。
2. 佐藤:イーロンマスクの衛星情報協力や米英の支援すごい。国家機密情報以外はすべて開示して世界のマスコミをほぼリードした。日本の「専守防衛」の悲劇(愚かさ)を現実に見た思いがする。
3. 名越:「軍事介入しない」というバイデンの発言がプーチンの作戦進攻を誘発した可能性はある。台湾では「あいまい発言」している(名越)
4. 谷口:中国の台湾進攻はいつやるかの問題だけ。習近平は「中国の夢」を語り、毛沢東が出来なかった偉業を成し遂げる決意固い。党主席の2期制限を廃止するのもその為だ。上海には日本人学校が3つある。海外で最多の日本人駐在員がいる。今後日本企業は中国での日本人派遣社員を縮小すべきだ(家族は即返すべき)

# 核と未来について

- 日本の非核3原則（作らず、使わず、持ち込ませず）の中で持ち込ませずは見直しすべき。米国潜水艦が呉や横須賀に核を持ったまま寄港することに問題なし（佐藤）
- 核シェアリングの先行事例（ドイツ・イタリア・オランダ・ベルギー）あるが、この協定に至るまでの加盟国間の協議が重要。非核3原則見直しには慎重だ。日本人の核アレルギーはまだ強い。当面長期距離弾道ミサイル開発に注力すべき（森本）
- これから世界は、権威主義的国家群と自由民主主義を尊重する国家群に分かれる（現在国の数なら権威主義国数は多い）（森本）



# 森本発言(総括)

- **中国はロシアの失敗を学んで、台湾進攻に慎重**になるだろう。西側世界からの**経済制裁**受ければ**中国経済は崩壊**するだろう(ロシアの比でない)。従って中国は**今後西側経済との依存関係を減ら**していくだろう。
- 台湾海峡は130km。ノルマンディ海峡は34km。台湾進攻で勝利するには**短期戦が必定**。制空権・制海権の**圧倒的支配**が前提なので、周辺の敵の**軍事基地(米軍と日本軍)**をたたくだろう。
- 今後中台両国は**進攻と防衛の戦略と戦術**を変えるだろう。台湾は**国家総動員、徴兵復活**の可能性あり。中国は**ロシア兵器を刷新し、最新兵器**に変えるだろう。
- **この秋の習近平3選はほぼ固い**。中国の台湾進攻した場合、ウクライナのように世界は**全面反対**しない。まして**軍事支援する国は限定**される(米英日、豪は遠い、インドは▲ アセアンは中立だろう)
- **2024年の米国、台湾、ロシアで大統領選挙**ある。台湾**総統選挙**で台湾独立派の政党が出てくると中国は**絶好の機会(理由)**にするだろう。大変危険なことだ。